

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第23号

2018年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
編集：専務理事 醬 油 和 男  
住所：〒160-0023  
東京都新宿区西新宿1-9-1  
TEL:03-3349-6194  
FAX:03-3345-6388  
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

## 勇気を持って進み、

## そして幅を広げよう。



音楽好きが昂じて専門としての勉強と訓練を積み、それを極めてプロの演奏家になりたいと願うことはどんなに素晴らしいことでしょうか。その実現のために恵まれた才能をさらに磨き続ける能力も求められるし、勉強を進める間には道の険しさ、極めることの困難さを幾度となく味わうことでもあります。

平成の時代に入って若い人たちの力量がさらに上がり、演奏のレベルは高まっています。各大学や音楽高校のカリキュラム、講師陣の充実もその助けになっていくでしょうし、何よりも若い人たちの熱意が伝わってきます。我々日本人の特性と思われることの一つに、先生方や先輩氏の言うことを良く受け止めて、それに基づいた勉強の仕方を辛

抱強く繰り返し行って身に着ける方法があります。自分の歌を思い描く、教わる、試すと同時に聴く、それを顧みる、そのサイクルが延々と繰り返されます。大事な基本、基礎を固めるのに相当に有効です。時として目前に追われて、自分の中に広がる夢や色を知らずに制限してしまうことも有るかも知れませんが、一つの奏法や歌唱法を自分なりに掴んだと実感できることはとても幸せなきっかけですし、またそれにより演奏する曲目や音色の幅が広がり、安定度を増すことに繋がります。

昨今は留学先など海外の情報も手に入れ易くなっています。留学経験のある先生方、先輩方の助言も受け易く、インターネットを駆使して自分で調べることが可能になってきています。自分と音楽の道を信じて世界に向けて行動しやすくなっていると言えるでしょう。

そして現在は国内外のコンクール、オーディションの類が頻繁に開かれ、成果を求める競争はいずれの場でも熾烈を極めていきます。最近では留学経験した人たちが国内のそういう場に参加することも珍しくなくなりました。それらに立ち会う機会に

ピアノスト・東京芸術大学名誉教授

東京藝大ジュニア・アカデミー校長

## 植田 克己

(当財団音楽分野選考委員)

しばしば考えるのですが、自分の得意な表現、レパートリーを率直に、そして無心に提供しながらも、別の角度から表現を考える可能性を示してくれることを少なく感じます。一途な余り単色になり、小さくまとまるのは我々の性格でしょうか。競争の先に何があるのかを考える時、この点はとても重要だと感じます。世界の若人の大胆さも参考になります。

これだけ才能の豊かな人たちがひしめく中、自分の成果を振り返ること、さらに他の表現の可能性を探る人がもつと出てきてほしいと思います。それがさらに個人の抽斗の数を増やすことやファンの増加にも繋がります。与えられた教育の機会、時間を充分に生かすのは当然のこととして、音楽や芸術が社会でどのように求められているか、どのように関心を持っているのかということにも、関心を持ってほしいと思います。その中で将来の立ち位置を想像しつつ、自分の夢を人々と共有できることを目指して、勇気をもって進んでほしいと願っています。

# 「海外音楽研修生費用助成」の

## 二〇一八年度申込受付を開始

### 助成の趣旨等

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去27年間の助成対象者数は、合計179名です。

二〇一八年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。4月6日(金)までにお申し込み下さい。

### 1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

### 2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。(対象とする専門分野は、声楽・器楽)

原則として音楽大学卒業(予定)者および大学院在籍者・修了(予定)者

・声楽は一九八五年九月一日以降、器楽は一九九〇年九月一日以降に生まれ  
た方

・海外留学についての計画と目標が明確である方

・二〇一八年から二〇一九年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方  
・研修目標の達成に必要な語学力を有する方  
※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

### 3. 助成対象人員

・4名程度

### 4. 助成金額

・年額200万円

・助成期間は原則2年

### 申込手続書類等

#### 1. 申込書

・所定用紙による。

#### 2. 推薦書(2通)

・2名の方の推薦が必要。

・推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先(当財団名)、②被推薦者(応募者)の氏名、③推薦理由、④作成日(3ヶ月以内)、⑤推薦者本人の署名

・録音資料および録音証明書

#### (1) 録音資料

・本人の演奏を収録したオーディオCDまたはM/Dを提出のこと。(ピアノ

および管楽器の一部については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと)

・二〇一七年七月以降に録音された演奏であること。

・応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。(声楽の重唱・器楽の重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外)

・オーディオCD(またはM/D)は録音した曲目の楽曲構造に応じて、分割(トラック分け)し経過時間を記入のこと。

#### (2) 録音証明書

・応募者本人の演奏であることを、伴奏者(個人または団体)、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

・証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名

### 日程

#### 1. 申込期限

・4月6日(金) 必着(申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします)

#### 2. 選考日程

・第一次選考(書類・録音資料審査)は4月下旬

・第二次選考(第一次選考通過者に対する実技および面接)は5月23日(水)

#### 【開催地 東京・新宿】

#### 3. 結果発表

・6月上旬予定

### 選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

([www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp](http://www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp))を参照下さい。

## 海外音楽研修生レポート

### 「私のいい人・いい音」



(スイス・グシュタート音楽祭で  
ヴェンゲーロフ先生と)

(15年度助成・ヴァイオリン)  
篠原 悠那  
(留学先・国際メニューイン  
音楽アカデミー)

2016年秋、桐朋学園大学の推薦でマキシム・ヴェンゲーロフ氏に師事するためスイス・国際メニューイン音楽アカデミーに留学。「ステイ先はジェンキンスさんご夫婦。いい人だよ。」しか知らされず、どこに住むのかわからないままジュネーブに到着。レマン湖のほとりの静かな町ロール。世界遺産ヴォー州の葡萄畑、すぐそこに牛がいるのどかな風景。緑の続く草原にポ

ツンと浮かぶ超現代的で宇宙船のようなアカデミーの建物。学校での共通語は英語で、ロシア語、フランス語も飛び交う中、日本人は自分一人(孤独感MAX)。隣の寮シャトーで一週間過ごし、ホームステイ先へ!

お互いを尊敬し合い愛に満ちた素敵なお夫婦と狼のような黒くて大きい犬チャリー(猫好きなお私、2年目にしてようやく仲良くなれてます)との生活が始まる。英語が苦手な私に、毎朝ごはんをゆつくり食べながらスイスの生活習慣、食べものを、行事、日常のいろいろを英語でレッスンしてくださるお二人。音楽、バレエを楽しみ、ダンスやゴルフ、スキー、旅行、そしてワインが大好きなお二人と一緒に過ごし、癒され、私も国際人(?)として少しずつ成長。アカデミーの3週間に及ぶ南アメリカ演奏ツアーで

は、連日の飛行機移動や長時間のバス移動、早朝出発や到着直後のリハ、レセプション、打ち上げなどの過密なスケジュールでの集団生活、時差ボケ、慣れない食べ物、高度3000mの薄い空気……演奏家は過酷な環境に対応し体調管理を行って本番に臨まなければと痛感。夏はピエトラサンタ(イタリア)、グシュタート(スイス)、ロックハウゼン(オーストリア)……と3つの音楽祭でヴェンゲーロフ先生とヨーロッパを大移動。レッスン(いつもユーモアに溢れていて、細かく厳しい指導)を受け、音楽祭のコンサートで先生と共演し、その音を間近で聴き、音を重ねる機会を得る。こうして学び、演奏する幸せを、そして人や音との出会いやつながりを感じずにはいられません。留学するきっかけとなり、このような環境を支えてくださったっている財団の皆さまに心より感謝いたしております。

### 「人との出会いで広がる世界」



(16年度助成・フォルテピアノ)  
川口 成彦  
(留学先・アムステルダム音楽院)

私の留学生活は異様な密度の濃さでした。リチャード・エガー先生の「ここまでやっちゃっていいの!?!」というような驚くべき音楽作りにアムステルダムでどっぷり浸かることの出来たことがまず素晴らしい経験でしたが、さらに思いも寄らない人々との新しい出会いで私の日本を離れた生活はさらに豊かになりました。一つの驚くべき出来事は、イタリアのサルツツォという街の講習会に参加した際にアムステルダム国立美術館の研究員の方とたまたま知り合い、それがきっかけで美術館の楽器展示用の録音を頼まれたことです。

数々の名画などを持つ世界最高峰の美術館の楽器展示で、私の演奏が流れていることは今でも信じ難いです。オランダのザインダイグの音楽祭に代役で出演することになって、日本を代表する若手ヴァイオリニストの佐藤俊介さんや、ロッテルダムフィルの団員などと室内楽を出来たことも思いも寄らない出来事でした。しかしそれ以上に驚いたのはそこで使われたピアノの持ち主が僕の演奏を気に入って下さり、その方の所有する1826年のオリジナル楽器(!!)が置いてあるスタジオを自由に使って良いと言ってくれたことでした。それ以降本当に自由に使わせてもらっており、感謝してもしきれません。そしてルームシェアを通じて大切な友人になったティンパニ奏者の安藤智洋君との出会いは私の宝物です。彼は僕が心から尊敬したい音楽家の一人で、今年からロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団の団員にもなりました。世界トップのオケの団員と生活を共にすることになるとは考えもし

ませんでした。楽しく一緒に生活するだけでなく、彼からも音楽の沢山のことを学びました。

留学生活というのは学校生活だけでは語りきれないものになると思います。人それぞれに新しい人との驚くべき出会いがあるでしょう。私も今後引き続きアムステルダムで生活をするにあたりどのような人生が動いていくか楽しみです。

「出会い」



(現在組んでいるカルテットのメンバーとコンサート終演後に撮影)  
(16年度助成・ヴァイオリン)

上野 明子  
(留学先・ケルン音楽大学)

留学してからあつという間に一年が経ちました。沢山の貴重な経験をさせて頂き、貴財団のご支援に心から感

謝の気持ちでいっぱいです。

今思い返すと、家探しから手続きを全てどうやっていこうかと途方に暮れていた一年前が既に懐かしいです。ドイツの冬は寒くて暗い気候で、留学当初まだ友達もいなかった自分にとって憂鬱でした。今では沢山の友人に恵まれ充実した生活を送っています。

ヴァイオリンと共に世界中を旅することが夢だった私にとって演奏会やコンサート、マスタークラスでヨーロッパ各地で演奏出来る事は大きな喜びの一つです。夏に学内の演奏会を偶然聴いて下さった人に声を掛けて頂き、その後フランスのツアーで21回の演奏会の機会を頂いたり、コンサートでお世話になったホストファミリーから演奏の依頼を頂き再びその地を訪れた事もありました。音楽を通して生まれたご縁がとても有難く大切だとつくづく感じる今日この頃です。

マスタークラスでは世界中から集まった同世代の音楽家との出会いがとても刺激的です。先日スイスで参加したマスタークラスでは、ソロ

と室内楽と弦合奏の全てが組み込まれ、一日中弾きっぱなしの日々でした。そんな中、空き時間を見つけて出会ったばかりの国籍も背景も違う仲間と即席でやった室内楽の初見大会が最高に楽しく、へとへとのはずの一日の終わりに、一週間後には別れが惜しいくらいの仲間が出来た事など、こういった経験や出会いが自分の人生の宝となると思います。

また、ヨーロッパ内は長時間電車移動することが多く、楽器を持つっていると「これはヴァイオリンですか?」と話しかけられ会話が弾むことがあつたり、ニュースでは耳にしていたもの、実際に銃撃戦で父親を亡くしたというシリアの難民に遭遇したこともありました。社会勉強を肌で感じながら学ぶこともありま

この一年だけでも多くの出会いに恵まれ、多文化に触れ、全てが新鮮で視野が広がりました。ここで経験してきた事を糧に、これからも感謝の気持ちを忘れず日々精進していきたいと思

「私のベルリン生活」



(フィンランドでの弦楽五重奏のコンサート時にメンバーと。中央はイザイカルテットのミゲル・ダ・シルヴァ氏)  
(16年度助成・ヴァイオリン)  
二瓶 真悠  
(留学先・ベルリン芸術大学)

私はドイツの首都ベルリンでヴァイオリンを勉強しています。留学して二年と半年、刺激の多い生活を送っています。そんな怒涛の二年半を少し振り返ってみたいと思います。最初はとにかくドイツ語の勉強をしていました。しかし間違えることを恐れ、喋ることに苦手意識を持っていた私はなかなか上達しませんでした。そのうえ受

験やビザ取得、引越など、生活環境を整えるために落ち着かない日々を過ごしていました。やがて少しずつ生活に慣れてくるとベルリンはとても住み心地の良い街だなど思いました。物価は安いですし、ベルリン・フィルハーモニーを筆頭にたくさんのお音楽ホールや歌劇場があり、世界トップクラスのコンサートが行われています。ドイツに来て半年が経った頃、現在師事しているマーク・ゴトニ先生とその奥様でチェリストの水谷川優子さんに出会いました。いつも優しく親身にしてくださるベルリンの父母です。

さて、受験も無事に終わり、いよいよ留学スタートです。日本人以外の友人も増えました。二年目には同じ門下の友人からカルテットを組まないかと誘われ、ずっとやってみたいと思っていたハイドンの弦楽四重奏曲をじっくりと勉強しました。他にもピアノ・トリオでコンクールを受けるなど、二年目は室内楽での活動が中心でした。そして三年目の今はソロ

のコンクールを受けることにしました。実は大きなコンクールを受けるのは7年ぶりです。それも突然に思い立ったことでした。なぜ急に受けようと思ったのか自分でも分かりませんが、留学からくる心境の変化でしょうか。先日ウィーンで開催された予備予選に合格し、2018年4月にイタリア・ジェノヴァで行われる第55回パガニーニ国際コンクールの参加権をいただきました。7年のブランクもあり、もうすでに気が引き縮まっています。後悔のないようしっかり準備して挑みたいと思います。

「ザルツブルクでの生活」



（昨年7月に受けた講習会で師事しているミヒャエル・マルティン・コフラー先生と）

（16年度助成・フルート）

八木 瑛子

（留学先・ジュネーブ高等音楽院）

オーストリアのザルツブルクで勉強を始めて、早一年が過ぎました。留学をする国・都市にもよると思いますが、ザルツブルクでの生活環境をいくつか紹介します。

日常生活では、日本では24時間営業のコンビニやスーパーが数多くあり、また、レストランに入ればおしぼりとお水が出てきますが、ザルツブルクでは19時で閉店するスーパーがほとんどで、レストランではお水は有料ですし、席に案内されてから注文を取りに来

るまで30分ほど経過するかもしれません。

また、宅配便の配達は、留守だった場合の再配達は全く期待できません。近所の人に荷物を託してくれていればまだ良いほうで、大抵のドライバーは最寄りの郵便局や配達支店に持ち帰ります。その際に不在通知が入りますが、再配達依頼の制度が無いので、その地域の配送センターまで取りに行く必要があります。最悪の場合は不在通知すら入っていない事もあります。

さらに、役所やお客様センターなど、予約や問い合わせの必要がある時ほど日本のサービスの良さを実感する事はありません。電話をすれば自動音声で延々と待たされた挙句、電話口に出た担当者からそれは私の管轄ではないので他の部署に電話をするようにとそつげなく言われて電話を切られたり、同じ役所の同じ部署に照会しても担当者によって説明内容が違ったり、たらい回しにされるのは珍しくありません。

そして、すべてに関係するのが言語です。ザルツブ

ルクの場合、英語が通じる場合もありますがあまり歓迎はされません。特に公的な場合ほどドイツ語が必要で、留学当初は電話する前にいつも問い合わせ内容を細かくドイツ語でメモにして、辞書も手元に準備してから問い合わせをしています。海外で生活する以上、現地語で話す事は相手へのリスペクトの意味も込めてやはり最低限必要だと思われ

れます。日本と比べ、便利とはいえない土地ですが、歴史のある街並みや自然は本当に美しく、通学中に「モーツァルトもここを歩いていたのか」と思うと、とても贅沢な場所です。勉強しているんだ、と実感します。これからクリスマスが近づいて、大聖堂の前でクリスマスマーケットやミサも行われますが、ヨーロッパならではの文化、生活感を味わいながら、より一層勉学に励んで参りたいと思います。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者（作曲部門）

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」（賞金50万円）を寄託し、次の方々が受賞されています。

91年度（第60回）	山岡 智
92年度（第61回）	藤満 健
93年度（第62回）	原田 敬子
94年度（第63回）	伊佐治 直
95年度（第64回）	望月 京
96年度（第65回）	若林 千春
97年度（第66回）	なかにし あかね
98年度（第67回）	大場 陽子
99年度（第68回）	三浦 則子
00年度（第69回）	小野 貴史
01年度（第70回）	名倉 明子
02年度（第71回）	朴 銀荷
03年度（第72回）	中村 寛
04年度（第73回）	宮澤 一人
05年度（第74回）	横島 昌伸
06年度（第75回）	山根明季子
07年度（第76回）	稲森安太己
08年度（第77回）	江原 修
09年度（第78回）	中辻小百合
10年度（第79回）	三宅 悠太
11年度（第80回）	魚路 恭子
12年度（第81回）	平川 加恵
13年度（第82回）	網守 奨平
14年度（第83回）	杉本 友樹
15年度（第84回）	向井 俊響
16年度（第85回）	東 優拓
17年度（第86回）	白岩 哲朗



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子 (ピアノ)

ベルリンから帰国してもうすぐ20年が経ちます。毎年新しい助成者の名簿を拝見する度にあの頃の自分を思い出し、外国での研鑽への期待感に満ちて旅立っていく若い人達に思いを馳せています。今年初めて日本音楽コンクール審査員を務め、数多くの素晴らしい熱演から新しいパワをももらいました。現在、国立音楽大学、東京音楽大学、桐朋学園大学で教えておられますが、日々の研鑽を積み重ねていく中で得られたものを、学生達に丁寧に伝えていけたらと思っております。

鈴木 優子 (打楽器・ハンブルク在)

ハンブルク・ドイツ劇場にて、2018年1月初演の演劇作品、シェイクスピア作「ベニスの商人」の音楽を担当するため、約3カ月間ハンブルクでリハーサルをします。また、横浜にある音楽教室での指導、ワークショップの開催などの活動を行っております。

1992年度助成

志茂 征彦 (ピアノ)

昨年より、クルターグの「遊び」に取り組んでいます。トッパンホールで行われた第2回「リスト音楽院の仲間たち」コンサートでは、第4巻より4手のための作品を取り上げました。それぞれの作品には、クルターグのキーボードに対する自由なアプローチと音楽の意味を、シンプルなジェスチャーやアイデアから読み取る方法が示されているように思います。アンサンブルにおける即興性と規則性は刺激的であり、もともと日本で演奏される機会があつてもよいのではないのでしょうか。

梅津 千恵子 (打楽器)

イタリアから日本に居を戻して5年が経過し、かなり日本に順応して暮らしやすくなった部分と失ってしまうものと同時に感じています。帰国後「大地の饗宴」パーカッション「メッセージ」というテーマで開始したプロジェクト。2018年4月第5回目は2018年12月ピエラ・デューオとともに計画中です。支えてくださる環境に感謝の気持ちで一杯です。

1993年度助成

九頭見 香里奈 (ヴァイオリン・アウグスブルク在)

私の近況ですが、今までと

す。

特に変わりなく、シユトウツトガルトフィルでコンサートマスターを務める傍ら、室内楽のコンサートや小さなリサイタルなどを開かせて頂いています。ここ数年、アマチュアの音楽家と接する機会が増え、つい忘れがちになつてしまつた音楽に対する情熱や喜びを再認識させてもらつています。音楽とは関係ありませんが、予定日より13週間も早く、呼吸も出来ない状態で生まれ、息も2年生になり、お陰様ですっかり丈夫になつたので、自分の時間が増え、既に3カ国語を流暢に話す息子に影響を受けながら、ドイツ語の詩の勉強をするのが楽しみの一つになつています。テロや災害といった悲しいニュースを多く聞く昨今ですが、ここアウグスブルクでは平和な毎日が過ぎていくので、ありがたい事だと思つています。

1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

私が財団から奨学金を頂きフランス・パリへ留学させて頂き22年が経過致しました。それから、2年前には日本楽壇デビュー20周年記念リサイタルツアーをさせて頂き、現在3才8カ月の第一子の娘の子育てをしながら、音楽活動を継続させて頂いており、誠にありがとうございます。

さて、私の2018年度の活動は、通常の全国コンサートとコンクールの審査等に加え、1月には日越外交樹立第

3回日本ベトナムピアノフェスティバルの日本公演を全国3カ所にて行い、総音楽監督と実行委員長を務めます。ベトナムからは、ベトナム文化観光省の推薦によりハノイ音楽院の13歳の学生を、日本からは福田靖子賞基金より選抜された学生が、日越の交流と共にピアノ演奏致します。このピアノ演奏フェスティバルを立ち上げてからは5年が経過致しましたが、本フェスティバルの理事である国会議員の先生や大使の方々と協力して運営を致しております。そして、毎週土曜日18時45分、FM横浜「ピアノワイナリー」響きのクラシックの番組司会も、今年で7年目を迎えてさせて頂きました。番組には150名を超える音楽家の皆さんに加え、知事や市長にもゲスト出演を頂き好評を頂いております。宜しければ、皆様にもお聴き頂ければ幸いです。(HP <http://ayuko-higuchi.music.coocan.jp/>)

マリア・アヤ・アシユリー (ヴァイオリン・ボン在)

昨年は、ケルン放送交響楽団の日本ツアーで、兵庫から東京にかけての7都市での8公演を楽しみました。佐渡裕さんの指揮で、皆様に喜んで頂けるような演奏ができたと思えます。留学生時代、部屋を共有した友達や、ジークフリート牧歌を演奏する私の姿に、ベルリンで一緒に四晩続いたことを思い出して涙が止まらなかった、と言ってくれた

ことが、一番のプレゼントでした。5月には、韓国、中国ツアーが待っています。

松岡 みやび (ハープ)

ハープは、紀元前から病気の治癒に使われてきた魔法の楽器です。そのため、精神的な悩みを抱えている方が生徒さんにも多く、専門学校に通って心理カウンセラーの資格を取得しました。

最新のCD「スリーピングハープ」(日本コロムビア)は、不眠症でお悩みの方々に向けて収録した心を整えて眠るためのアルバムです。催眠療法という心理学のスキルを取り入れて、新しい演奏法「フェアリー弾き」を開発しました。脳科学者の茂木健一郎さんがCD解説を書いてくださり、東京FMでも「脳科学とミヤビ・メソッドについて」対談しました。Amazonライトクラシック部門でCDが売上1位になってくださったの反響があり、これからは音楽と心理学を合わせた新しいスタイルを追求していきたいと思っております。TVタレントとしての仕事では、バイオリンとストの高嶋ちさ子さん、AKB指原莉乃さん、歌手の岡本真夜さんたちとバラエティ番組に出演しました。音楽家のプライベートを特集する番組で、わたしの婚活企画やデートロケの台本もあり、いろいろな出会いと広がりを楽しんでおります。今年も、どうぞよろしくお願いたします。

神田 寛明 (フルート)

第9回神戸国際フルートコンクールは昨年(2017年)5月から6月にかけて、厳しい録音審査を通過した46名の出場者が集って開催されました。一時はコンクールの存続が危ぶまれる事態となりましたが、関係各位ならびに多くの市民のみなさまの支えにより無事開催できたばかりだけでなく、4年後の第10回に向けての準備を始めることができました。今が働き盛りと言いつつも、N響・桐朋での活動を軸に四方八方縦横無尽広く浅くアクセク働いております。

1995年度助成

志茂 美都世 (ヴァイオリン・イギリス在)

こんにちは。よく相談を受けるのですが、初めの頃留学先の先生から演奏のフレイジングは細切りにしない方が望ましいと指摘を受け、戸惑ってしまふ留学生の方が少なくない様ですね。クラシック音楽はヨーロッパで誕生しましたので、基本的にヨーロッパの原語と音楽的なフレイジングというのには密接に結びついています。その上で人種や土地柄による解釈の違いや個人的な好みの違いが出てきます。留学のメリットは、実際に言語とフレイジングを両方一緒に学べるところだと思えます。さて、今年日本と海外での演奏活動と講習会での指導を予定しています。

玉井 菜採 (ヴァイオリン)

今年担任している多くの学生が留学しました。ここ最近、ドイツ語圏でも入学時の語学の基準が厳しくなりましたが、着々と準備し、軽やかに海外に出ていく姿を頼もしく思います。一方、スパーバグロバル創成支援大学に採択されている藝大では、毎月のように海外の素晴らしい先生方が来校されます。学生たち、ありがたみが分かっているのかなあ、と思うことがあります。

石橋 幸子 (ヴァイオリン・スイス在)

昨年は私にとつて忘れられない1年になりました。それはスイス音楽財団より、私がヴァイオリンを務める弦楽三重奏のグルーブ「トリオ・オペラード」に、ストラディバリウス3挺の貸与を受けたからです。私が昨年夏より使用しているストラディバリウスは1710年製の「キング・ジョージ」。特に低音の厚みと深みのある音色が魅力的で、その高貴な音色を毎日体感できる環境に、とても感謝しながら演奏に励んでいます。新しい課題や発見、楽器から学ぶことが大変多く、毎日がとても新鮮で時間を惜しんで作品に取り組んでいます。このような機会をいただけたスイス音楽財団の皆様へ感謝しながら、今後もまだ未発掘の素晴らしい弦楽三重奏の作品を、皆様にお聴かせできる様に励んでまいります。

1996年度助成

磯 絵里子 (ヴァイオリン)

昨年は楽壇デビュー20周年を迎え、東京文化会館などで記念のリサイタルを開催しました。また新譜CD「エスプレッシヴ」をリリースし、節目の年に、各地で様々な音楽活動ができましたのも貴財団からのご支援での留学生生活がベースにあることに感謝しております。今年も様々なシーンで活動を予定しております。神奈川フィル、山形交響楽団との公演も楽しみに、ソリストとして、また鎌倉芸術館ゾリストとして、また国際音楽祭、アンサンブルΦ(ファイ)やデュオ・プリマでの音楽活動でも各地で演奏会を予定しています。また地域創造アーティストとしてのアウトリーチ活動も大切にしており、引き続き、沢山の子供たちとのふれあいや楽しみです。7年続けさせて頂いてい

1996年度助成

田邊 織恵 (声楽)

京都教育大学音楽科、大阪音楽大学で教鞭をとるようになり、5年目を迎えました。まだまだ勉強中ですが、少しずつこの生活のバランスも取れるようになってきました。昨年12月には、河原忠之さんプロデュースの大阪いずみホールオペラ「愛の妙薬」ジャンルネッタ役で出演。2月には、高槻で「ラ・ボエーム」ムゼッタ役で出演します。また作曲家鈴木英明先生の作品集CD「歌曲の世界I、II」と2枚のCDが発売され、私の歌も入っていたいただきました。大阪の歌などもあり、とても素敵なCDです。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

2017年4月より、相愛大学准教授として勤務致しております。東儀祐二先生、小栗まち絵先生と、名教授の恩師達の後任として、伝統ある大学で、これからの時代の音楽家の卵達を大きく育てていく。また、京都市立芸大、県立西宮高校、相愛中学校でも、これまで通り非常勤講師として後進の指導に当たっております。ソロ・室内楽・オーケストラでの演奏活動とあわせて、お陰様で多忙ながら充実した毎日です。

1996年度助成

田邊 織恵 (声楽)

京都教育大学音楽科、大阪音楽大学で教鞭をとるようになり、5年目を迎えました。まだまだ勉強中ですが、少しずつこの生活のバランスも取れるようになってきました。昨年12月には、河原忠之さんプロデュースの大阪いずみホールオペラ「愛の妙薬」ジャンルネッタ役で出演。2月には、高槻で「ラ・ボエーム」ムゼッタ役で出演します。また作曲家鈴木英明先生の作品集CD「歌曲の世界I、II」と2枚のCDが発売され、私の歌も入っていたいただきました。大阪の歌などもあり、とても素敵なCDです。

大谷 玲子 (ヴァイオリン)

2017年4月より、相愛大学准教授として勤務致しております。東儀祐二先生、小栗まち絵先生と、名教授の恩師達の後任として、伝統ある大学で、これからの時代の音楽家の卵達を大きく育てていく。また、京都市立芸大、県立西宮高校、相愛中学校でも、これまで通り非常勤講師として後進の指導に当たっております。ソロ・室内楽・オーケストラでの演奏活動とあわせて、お陰様で多忙ながら充実した毎日です。

2000年度助成

諸田 広美 (声楽)

昨冬は10年ぶりにヨーロッパへ出かけ、2カ月の間に6カ国22都市を巡る大演奏旅行となりました。帰国後は日まぐるしい日々で、色々な場所での演奏の機会に恵まれました。特に、昨夏は、3M音楽祭というMで始まる3都市(前橋・水戸・松本)を巡るツアーを頼まれ、一カ月に1回のペースで、リサイタルをさせてもらいました。2年前に、第1回ロシア音楽コンクールで優勝してから、ロシアとの縁は広がるばかりで、今年にはロシアを訪れる予定なので、只今ロシア語を猛勉強中です。また2年前に、藤原歌劇団に移籍しましたが、やっと初舞台が決まり、4月29日帝国ホテルで開催される「フィガロの結婚」に出演予定です。

です。さらに演奏の場が増えるよう、今年も頑張ります。

神谷 未穂

(ヴァイオリン)

今年も仙台フィル、千葉交響楽団(ニューフィル千葉から名前が変わりました!山下一史音楽監督、横浜シンフォニエッタ(山田和樹音楽監督)でコンサートマスターとして活動、宮城学院女子大学、霧島国際音楽祭、山形川西町でのサマースクールでの指導、ソロ、従姉の磯絵里子とのヴァイオリンデュオ・デュオプリマ、ゲストコンマス、室内楽等で、長野上田サントミューゼのレジデントアーティスト活動はじめ、全国各地で演奏します。日本演奏連盟の新人リサイタルでデビューしてから、20年経ち、仙台フィルは8年目、NHKひるはび(東北エリヤ)レギュラーも7年。仙台フィルロシアツアー時にお腹の中にいた息子も4歳。昨年からはまっている甘酒と早寝早起きで、今年も益々元気に過ごしたいと思えます。留学生の皆様が健康第一で充実した日々を過ごされますように。

シユレイファア(遠藤)弓子

(ハーブ・ダラス在)

皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。アメリカでは様々な問題が山積しておりますが、私自身は目まぐるしく過ぎていく時の中で、その日その日の課題をこなしていくのに精一杯の日々が続いております。相変わらず、ソロ、室内楽と

オーケストラの演奏の機会に恵まれ、また、幼い頃から教えていた生徒達が音楽大学へ進学する様になり、世代交代をひしひしと感じています。こちらダラスではダラス・シンフォニーの指揮者が今シーズンを終えたらニューヨーク・フィルへ移るため、次期の指揮者が決まるまで、少し浮き足立った感じがしています。現指揮者のJanne Zwenenとの最後の演奏は5月のワグナーのワルキューレになります。ハーブ6台のオペラですので今からとても楽しみです。

藤井 香織

(フルート・ブリュッセル在)

ブリュッセルよりこんにちは!これから1ヵ月間、3年前に立ち上げたNPO、Music Beyondの活動の為、アフリカのコンゴ民主共和国に行つてきます。紛争続きで、本当に過酷な状況下で頑張っている音楽家に自信をもって生きてもらうお手伝いをする、という趣旨のこのNPO、回を重ねるごとに、音楽が人間らしく生きるためにもたらずパワーの大きさをひしひしと感じ、同時に最高の音楽教育を受けられたからこそ、自信を持ってこの活動が出来ています。明治安田クオリティオファライフ文化財団の皆様には、本当に感謝しきれません。音楽家にはいろんな形がある、でもいちばん大切なことは、どうやって音楽を通して人の役に立ち、恩を送っていかか・それに尽きると思うので

です。2018年が、皆様にとって希望と優しさに満ちた一年になりますように。

2001年度助成

山本

(声楽)

日本へ帰国後、子育ての傍ら、歌手活動を再開しております。一昨年末には二期会サロンコンサート、昨年度は夏に二期会サマーコンサートに出演しました。年間を通して、女声、混声コーラスの指導も行っております。歌と共に過ごす、私にとってかけがえのない時間、活動を支えてくれている家族、周りの人達に感謝しながら、これからも真摯に、歌へと向き合っていきたいと思っております。

2002年度助成

柳原

(声楽・ヘルリン在)

2017年は、エアランゲン劇場で劇作家エルフリード・イエリネットクスの作品「Wut」に出演し、ドイツ人俳優同様セリフを、ドイツ人俳優シユトラウスのオペラ「サロメ」からの抜粋を歌わせて頂きました。4月には、斎藤一郎指揮で京都フィルハーモニー室内楽団、エレクトロニクスの有馬純寿さんと共演させて頂いた、若手作曲家山本和智さんの委嘱新作「韻律の塔(2017)」ソプラノとエレクトロニクス&室内楽のための曲を初演させて頂き、末吉保雄さん作曲の「中原中也の3つの歌」を歌わせて頂

きました。山本さんの曲は、大変難しい曲でしたが、ヨーロッパで多くの初演を歌わせて頂いた経験から、日本の才能ある若い作曲家とのコラボは、とても嬉しい事でした。この曲は、2018年11月16日にセントラル愛知交響楽団と再演させて頂くことに決まっています。その後ヨーロッパに戻って、5月から夏のヴェネチア・ビエンナーレにかけて、コンスタント劇場で、アンナ・ソフイー・マラー演出の移民問題をテーマとするMusiktheaterに主演し、ヴェルデイ「椿姫」や「レクイエム」の抜粋を歌わせていただきました。彼女とも来年2月にMünchner Kammeroperにて、ドイツの1968年闘争をテーマとしたプロジェクトの初演があります。10月には、ベルリンで所属するオペラカンパニー・Novototでスイス人作曲家のMichael Vermler、クラリネット即興演奏者でもある作曲家Claudio Puntinの曲を初演。京都・妙心寺法堂にて、京都フィルハーモニー室内楽団&尺八奏者・伴英将さんと御詠歌を山本和智さんが編曲したものを私ソロとして、僧侶&檀家の方々と歌わせて頂きました。重要文化財に指定されているこのような神聖な場所でも歌わせて頂き、とても貴重な体験をさせて頂きました。

演、京都フィルハーモニー室内楽団の定期演奏会に出演、セントラル愛知交響楽団との共演の他に、6月にはフランス・リヨンオペラ座で、モーツァルト作曲の「ドン・ジョヴァンニ」の新作演出にツェルリーナ役で出演します。楽しみみです。

2003年度助成

市原

(声楽)

本年はNHKニューイヤール・オペラ・コンサートで活動をスタートさせて頂きました。2月にはパヴェル・ヤルヴィ指揮のNHK交響楽団定期演奏会にて「フォーレ」出演予定の他、大阪フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団などの共演も予定しています。留学の成果を発揮できるように、精一杯努めて参りたいと思います。

2004年度助成

富平

(声楽)

ドイツから帰国して早7年ほどが経ちました。昨年バイエルン歌劇場が来日した際に、自分も出演した魔笛の舞台を久しぶりに観劇し、ミュンヘン時代をとて懐かしく思い出しました。相変わらず素晴らしい舞台と音楽に胸が躍りました。懐かしい同僚達にも久しぶりに会え、楽しい時間を過ごしました。また、シユトウツトガルト留学時代

の同僚達の名前を近年色々な場所で見たり耳にしたりすることが多くなり、彼らのキャリアに続き自分も頑張ろうと良い刺激を受けています。自身の活動としましては、今年7月に東京二期会「魔弾の射手」のエンヒェン役、11月には同団体「後宮からの逃走」プロデ役にて出演予定です。家族のサポートに感謝しつつ、日々準備をしているところです。

協岡 洋平 (ピアノ)

昨秋久々にヨーロッパを訪問し、ドイツそしてハンガリーの地にて演奏をしてまいりました。特にリストの誕生日に催されたブダペストのイベントコンサートではリスト自身が当時教鞭をとっていた学校の建物のホールで演奏することができ、とても思い出に残る演奏会となりました。またCD録音も行い、来春に発売を予定しております。

2005年度助成

横坂 源 (チェロ)

今年もシユトットガルト放送響のメンバーと組まれた室内楽グループ、リードヴィツヒチェンバープレイヤーズで1月はCD録音、5月はドイツツアー、そして10月は2年ぶりの日本ツアーでロシアの作曲家を中心に演奏をさせて頂きます。留学を終えてからもこのような素晴らしい機会に恵まれ、音楽に精進できまことを心より感謝申し上げます。

ます。

遠藤 真理 (チェロ)

2017年4月より、読売日本交響楽団のソロチェロ奏者としての活動を始めました。今までは違った緊張感があり、シンフォニーやオペラなど、沢山の作品に触れる事が出来ていきます。2012年から始めたNHKFMきらクラもすでに6年目を迎えゲストにお越し下さった方々とのコラボ演奏も楽しみの1つです。

2006年度助成

佐藤 卓史 (ピアノ)

2017年はエリザベート王妃国際コンクール(ブリュッセル)初開催のチェロ部門の公式伴奏をはじめ、自部門の発表、地元さいたまでの新たなシリーズ企画など、新しい挑戦の年となりました。15年間にわたって開催予定の「佐藤卓史シユベルトツィクルス」は第7回まで終了。2018年は4月18日に第8回、10月5日に第9回をいづれも東京文化会館小ホールで開催します。  
www.takashi-sato.jp

鈴木 真貴子 (ピアノ)

昨年は、芸大時代の同級生や友人たちと共演する機会に恵まれ、再会を懐かしむとともに、一緒に舞台上に立てる喜びや、音楽が つなぐ縁の面白

さを感じた一年でした。コンサートやアウトリーチ、講座やレッスンを通して沢山の素晴らしさを改めて私に教えてくれた気がしています。この経験を糧に、今年も精進してまいりたいと思います。

2007年度助成

中村 恵理 (声楽・ミュンヘン在)

2016年よりフリーランスとして活動を始め、ミュンヘンを拠点に各地で演奏活動を行っています。専属を離れてからもバイエル国立歌劇場でゲストとして出演している他、日本での活動も増え、専属時代よりも忙しく演奏活動を続けられています。また、今年度はJXTG音楽賞奨励賞(旧・エクソンモービル、東燃ゼネラル音楽賞)を受賞させて頂き、今後一層より良い音楽を志して取り組んで参りたいと心を新たにしています。今後はリサイタル、NHKニューイヤーパーラコンサート、香港フィルとのコンサート及びCD録音などが控えており、その準備に追われる毎日です。

相田 麻純 (声楽)

和国の音楽祭に参加したり、臨月最後のソロコンサートを楽しんで終えた6日後に赤ちゃんが産まれたりと、常に周囲には音楽の恵みがあり、体力や精神力が良い時も弱い時も、歌うことが日々の原動力となっていました。妊婦への理解が深い素晴らしい仕事仲間や家族に支えられたことは言うまでもありません！一人の尊い命が育つためにも、また一人のしがたない音楽家が演奏するためにも、非常に多くの人間が関わり助け合っている社会環境はなんとも尊いものだと思います。自分も、そのような社会環境の一駒となるように、母親業と音楽活動を通して多くの人と関わり支え合って、より良い次世代に少しでも貢献できればと思います。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

昨年は第二子が生まれ、以来我が家は2倍の洗濯物と2倍の笑いで溢れる日々です。妊娠中も、韓国やグルジア共

塚越 慎子 (マリンバ)

去年度から洗足学園音楽大学で教えていますが、今年度から桐朋学園芸術短期大学でも教鞭をとっています。生徒を教えることで私自身も勉強になることが多く、自分独りの学びでは得られなかった喜びを感じられています。また、歳を重ねることで声に深みが出てきたことを感じ、自分という楽器を育てていく大切さを改めて認識しています。

2009年度助成

重島 清香 (声楽・ワイマール在)

2018年1月には念願のケルビーノ役、そして4月にはタンホイザーのヴィーナス役に出演いたします。恵まれた職場環境、配役に心から感謝し、初心を忘れずにこれからも精進して参りたいと思います。

金子 平 (クラリネット)

留学から帰国して5年がたち、読響や木管六重奏団「東京六人組」の活動もますます多くなり、充実した毎日をごしています。昨年は毎年夏に行われる木管音楽祭にも参加し、多くの名演奏家の方々と共演することができました。最近「東京六人組」の



藤井 淳子  
(チェロ・ドイツ在)

昨年4月にドイツ・ミュンヘンにて行われたチェロコンクールに出場したのですが、とてもユニークな体験でしたので、是非書かせてください。このコンクールではいつも通りの実技演奏に加え、毎曲、自分が今から弾く曲について語らなくてはなりませんでした。このコンクールの趣旨は、演奏だけでなく、自分の曲に対する思い入れやアイデアをいかに聴衆の心に響くように伝えられるか、というのが第一の課題となっております。ヨーロッパ、特にドイツでは、協会でのコンサートやハウスコンサートなどのサロン形式のコンサートでは必ずと言っていいほど演奏の前に曲の説明が入ります。そうすることにより、聴衆がより親しみを持って音楽を聴くことができるところです。また、演奏だけではどうしても伝わらない演奏家自身の人柄や個性も言葉に乗せて伝えることができ、少しばかり冗談も交えて語ることに、より聴衆と一体となつて暖かいコンサートができる素敵な機会だと思えました。ただ、慣れないドイツ語だったので演奏とはまた違った緊張をしましたが、このコンクールをきっかけに、その後もちょつととしたコンサートでは進んで語りを入れようになりました。私はよく黛敏郎の音楽を好んで演奏するのですが、演奏の前に、音楽とは何か、またどういう思いでこの曲を演奏しているのか、という事を伝えてから

弾くのとそうでないのではまったく聴衆の反応は違います。皆さんが興味を持って、自分の想像する世界に入って曲を楽しんでもらえれば、と私は思っています。これからのこの素晴らしい経験を生かして、聴衆とより身近に感じられるような演奏ができるよう努めていきたいと思えます。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃  
(音楽・オーストリア在)

昨年から東京二期会に入会し、度々日本に帰って歌わせていただいています。2018年7月の《魔弾の射手》のエンヒェン役で二期会オペラデビューをさせていただきました。私がオペラを決まりました。私がオペラを演じることに夢になるきっかけとなったコンヴェイチュニー氏の演出という事で、とてもワクワクしています。

浦山 瑠衣  
(ピアノ・ボストン在)

みんなちがって、みんない。と詩人金子みすゞが詠ったように、其々の文化がお互いを思いやると最高の世界になるのではと最近考えるようになり、世界の民謡・童謡を集め、合体させ、コンサート用に編曲し演奏する活動を始めました。アメリカ政府よりアーティストビザを頂いた今、指導・演奏をしながら今を生きる者として何ができるのかは一生の課題であります。

中川 日出鷹  
(ファゴット)

昨年の夏もルッツェルン音楽祭に参加していました。演奏家として作曲家として敬愛するハインツ・ホリガー氏との共演は大変充実したものでありました。呼吸をするような彼の音楽は忘れられませ

2015年度助成

齊藤 一也  
(ピアノ・ベルリン在)

パリからベルリンに移ってからの生活も、もう半年以上が経過しましたが、同じヨーロッパとは思えないほど、吸っている空気自体が全く別物に感じます。新天地での勉強を選んだのもこの違いを自らしっかりと感じ取るためであり、それがより深い音楽感を育んでいく上でも、最も大事なことだと実感しています。今在籍中のベルリン芸術大学では主にレッスンがメインなので、自分のペースで落ち着いた勉強ができることがとても魅力です。今後も、ドイツ語の習得と共に、もっと知識と理解を深めた上で、音楽をきちんと自分の感性で「語れる」ように、精進したいと思います。

2016年度助成

鈴木 玲奈  
(音楽・ウィーン在)

昨年は、日本音楽コンクールにて1位をいただくことができ、そして期待と不安、希望、様々な思いを抱いて、

2017年度助成

松原 みなみ  
(音楽・ウィーン在)

ウィーン国立歌劇場のオーディションで、総監督から頂いた「ちゃんと歌ってるけれど、本当の意味では理解していない」という言葉は、当時ショックで受け止められませんでした。留学は、今は大切な課題です。留学はこのような課題を一つでも多く乗り越える機会だと信じて日々励んでいます。

今田 篤  
(ピアノ・ライプツィヒ在)

ライプツィヒでの生活も2カ月が過ぎ少しずつ新しい環境での勉強に慣れてきました。奨学金のお陰でバツハ、シューマン、メンデルスゾーンといった偉大な作曲家たちが時間を過ごしたこの場所でも自分も音楽の探求に励むことができ大変嬉しく思います。大学の教授では一つのことにと固執せず常に色々な可能性を提案していただき今までのよりも音楽を多角的に見つめるようになりました。コンサート活動は12月にはベルギーで、4月には学校の創立275周年のコンサートへの

出演が決まりました。一つ一つの機会に感謝しながら自分が勉強してきたことを表現したいと思えます。

坪井 夏美  
(ヴァイオリン・ウィーン在)

ウィーンに留学して1ヵ月、慣れないドイツ語での手続きに奔走しながら、新生活が始まっています。オペラ座で観た『トスカ』に胸が躍り、憧れの楽友協会で聴いたウィーンフィルの演奏に心を打たれ、たくさんのコンサートに足を運びました。尊敬するヴェルニコフ先生のレッスンからも新しい発見の連続です。このような貴重な留学の機会をいただき感謝の気持ちいっぱいです。これからも日々研鑽を重ね有意義な留学生生活を過ごせよう、一杯頑張りたいと思います。

中島 諒  
(サクソフォン・パリ在)

フランスでの留学がスタートしてから早一年が過ぎました。日本では実家暮らしだったので、初めは何もかもが新しいことで、ましてや海外でしたので、大変なこともありましたがとても刺激的でした。学校での生活はもちろん、国際コンクールの参加を通して、世界中の方とお話しをしたり時間を共有することで、沢山の発見がありますし、人生の中で素晴らしい経験である事は間違いありません。これからも頑張っていきたいです。

